

# 「ありがとう長生橋 長生橋の魅力（ステキ）再発見 シンポジウム」 会議録要旨

## 1. 開会

アナウンサーの船尾佳代氏の司会で開会しました。

## 2. 挨拶

新潟県長岡地域振興局長坂井武徳より、長生橋 80 周年のイベントの趣旨と本日のシンポジウムの内容について話がありました。

【80 年前の長生橋や長岡の様子を映したフィルム上映】

## 3. 基調講演

河井継之助記念館館長の稲川明雄氏から、3 代目長生橋建設に関わる人々の努力に焦点を当てて講演していただきました。講演内容は以下のとおりです。

\*\*\*\*\*

先ほどご覧いただいたフィルムは 80 年前のもので、昭和 12 年の開橋式の前に撮られたものと思います。昭和 12 年は日中戦争がはじまった年で、日中戦争の出征兵士を送る映像が出てきます。また、福島江が出ていたり、長岡市婦人会がでてきたり、長岡市が当時どういう状況だったのかわかるとおもいます。そして、新しい 3 代目の長生橋から見た 2 代目の長生橋の様子も映っています。乗合自動車を通るたびに揺れて、欄干に人がしがみついている様子わかります。

私は長岡花火の時に、三尺玉が上がって長生橋のシルエットが浮かび上がったときにとっても感動します。あれは人間が魂を込めて作った人知の橋だ、こういう風に思います。

江戸時代に川の西と東をつないでいたのは草生津渡しといわれる渡し船で、35 人乗りの船 6 隻が行き来していました。しかし川幅が広く、渡るのが大変だったため、岡村（現在の緑町）の庄屋、広江椿在門という人が中心となって初代の長生橋をつくりました。

初代の木の橋は大正 3 年に大洪水で流されてしまいました。そこで、大正 4 年に植木組が請け負って 12,000 円で 2 代目の橋をつくります。これも木橋です。このときは電動の杭打機を使って約 15 尺の杭を打ち込みました。しかし、2 代目の橋は人だけではなく、バスやリヤカーも通ったので、グラグラするようになりました。このため早期の架け替えは長岡市民にとって大変切実な問題でした。そこで、政友会に属している長岡市長の木村清三郎らが中心となり、県会に長生橋架け替えの嘆願書を出し、昭和 7 年 11 月の県会に議題としてあげられました。当時、長岡でも県会でも、政友会と改進黨系とが対立する政治風土にあり、県会の多数を占める改進黨系議員たちは長生橋架け替えを否決することにしました。それを知った長岡出身の樋口という改進黨系の県議は、長岡の改進黨系の市議に電話で伝えます。これは長岡のためにならないということで、長岡では党派を超えて団結します。木村市長を中心に各派の市議たちが立ち上がり、架け替えの運動を行った結果、昭和 7 年 11 月の県会で可決されました。

架け替えに係る県の費用試算は 68 万 8 千円でした。2 代目長生橋を作った植木組の植木亀之助は、自分たちが 3 代目も作るんだという強い意志を持っていましたが、病床に就い

てしまったため、その息子の豊太が父の意志を継ぐこととなりました。第一期工事の基礎工事の入札には、日本全国からいろいろな会社が集まってきました。信濃川の激流にコンクリートで橋脚をたて、鉄骨で橋を組み立てるという難工事は、地元業者では難しいだろうと、県の役人も思っていました。結局植木組が7万ちょっとで落札しました。

植木組は難工事と言われた下部構造をつくりあげました。そして鉄骨をくみ上げる上部構造の工事は、随意契約で引き続き植木組が行うことになりましたが、これが大変でした。鉄材が高騰したからです。植木組は全国の鉄鋼会社を回り鉄材を手に入れようと奔走しましたが困難を極めました。当時の契約は当初予算通りにやることになっていたのだから、材料の高騰分は全部植木組が引き受けるしかない。植木組は県から呼び出され、できないのならば他の業者に任せるがどうするか、と迫られました。植木組は潰れてしまうかもしれないという危機感の中で、当時の豊太社長は、「金をとるか、人間をとるか。自分は人間をとる。」として義務を果たそうとしました。結局、上部構造の3連分は植木組が、残り10連分は大阪鉄工所が作りしました。そして、県も植木組に敬意を払い、橋の仕上げは植木組にやってもらいました。

配布資料には昭和12年10月12日開橋式当日の北越新報の新聞記事を載せました。当時の長岡土木派遣所の豊岡肇は次のように寄稿しています。「昭和9年1月大積雪を冒して、基礎工事着手以来4年、この間洪水時における基礎井筒の傾斜、径間割丁杭の流出、激流中における井筒沈下用築島あるいは、材料の暴騰など幾多の困難と危険に遭遇したことは、いまも思い新たなるものがある。この間、上司の懇切な指導と植木組の時機に即した措置と犠牲的英断には感謝に耐えぬものがある。」そして、植木組の豊太氏は開橋式には欠席しましたが、押しかけた記者に対し次のようなコメントを残しています。「長生橋に対し、過去の世評はともあれ、自分としてなすべきことをなすの心情を果たしただけである。県の幸福即ち長岡の幸福以外、何も考えていない。人事をつくして天命を待つ、そこになんのわだかまりもなく、不快の念もない。ただ、事業の達成した喜びがあるのみである。」

以上のように、長生橋は政治風土も、自分たちの利益も、超越してつくられた橋です。人間としての魂をぶつけてできた橋です。そういう意味でもこの橋を文化遺産として残して行ってほしいと思います。

\*\*\*\*\*

#### 4. 発表 「たのしく知ろう長生橋」大島小学校5年生児童

大島小学校5年生の6名の皆さんから、自分たちの調べた長生橋の歴史について発表していただきました。

初めの自己紹介では、自分の好きなことを一人ずつ英語で発表してくれました。水泳、マラソン、バトミントン、バスケットボール、ピアノなど、みなさん元気にがんばっているようです。

発表では、はじめに長生橋に関して3つのクイズが出されました。第一問、長生橋を作ったのはだれか。第二問、長生橋は何回塗り替えられたのか。第三問、初代長生橋はいつごろできたか。後の説明の中に答えがあるそうです。

次に初代長生橋とそれをつくった広江椿在門さんの紙芝居がありました。渡し舟しかなかった時代に、広江さんが私財を投じて長生橋をつくったことを手作りの紙芝居で丁寧に説明してくれました。

そして長生橋について三つの説明をしてくださいました。一つ目は長生橋の色について。これまでに長生橋の色はピンク、薄肌色、クリーム色、薄黄緑という順に塗り替えられました。そして10年に1回の頻度で塗り替えが行われているそうです。

二つ目は、長生橋の建て替えについてで、これまでに3回建て替えられ、現在の橋は三代目だそうです。

三つ目は長生橋の名前の由来でした。川西の長岡町の「長」、川東の草生津の「生」をとって「長生橋」となったそうです。

そしてクイズの答えです。第一問の答えは広江椿在門さん、第二問の答えは3回、第三問の答えは明治9年10月20日でした。

最後に、長生橋を学習して感じたことを一人ずつ話してくださいました。

## 5. パネルディスカッション 「長生橋のあんな魅力 こんな魅力」

コーディネーター	長岡市景観審議会委員長	水流 潤太郎氏
パネリスト	長岡造形大学教授	渡邊 誠介氏
パネリスト	長岡工業高等専門学校准教授	井林 康氏
パネリスト	一般社団法人長岡青年会議所理事長	大石 慶太郎氏
パネリスト	長岡商工会議所女性会 副会長	並木 純子氏

自己紹介の後、コーディネーターの水流氏から、パネルディスカッションの前半は長生橋の魅力について、後半は魅力を高めるための提言について語りあいたいとの提案がありました。

【水流】長生橋の魅力について順番にお話ししていただけますか。

【並木】千手地区で育ったので、長生橋は遊び場の一つでした。土手から見た夕日、そして水道タンク。そうした風景の中に長生橋はありました。市民一人ひとりの思い出に寄り添っているという意味で稀有な存在だと思います。

【大石】越路出身なので、子供の頃に町に行くときにはワクワクしながら長生橋を通りました。長生橋のナイアガラと三尺玉も子供の頃から記憶に刻みつけられています。旧長岡市民でなくても近隣住民には原風景として心に刻まれていると思います。

【井林】仙台市出身ですが、長生橋は現代の橋に比べるとゴツくて、しかし親しみ深い橋、という印象があります。ゲルバートラス橋の中でも、長生橋のように13径間もある橋は全国的に極めて珍しく、そうした意味でも魅力を感じます。

【渡辺】36年前～29年前にかけて長岡技術科学大学の学生でした。当時先生から長生橋のリベット打ちはすごいと教えられ、殿町で飲んで歩いて帰る際には、長生橋でエアリベットをやったり、「新潟ブルース」の替え歌を歌いながら渡ったのが大切な思い出です。

【水流】それぞれの長生橋があるということがよくわかりました。県外者も地元民も、長生橋が見えると長岡だ、帰ってきた、と思わせることは大変素晴らしいと思います。ここで長生橋の土木構造物としての魅力を井林さんからお話していただきます。

【井林】スライドで説明します。橋には大きく分けて「けた橋」と「はね橋」があります。「はね橋」は橋を少し長くするために、材を両端からちよつとずつ伸ばして、その間に板を渡した橋で「はね橋」は英語で言うとカンチレバー橋ですが、日本でも古来からある形式です。山口県の枳築らんかん橋や山梨県の猿橋などがあります。カンチレバー橋の一種、カンチレバートラス橋はトラス（三角形の集合体）で作った「はね橋」です。東京ゲート

ブリッジやイギリスのフォース橋などがあります。

カンチレバー橋は長短の橋梁からできていて、長短の橋梁はヒンジ（蝶番）でつながっています。カンチレバー橋のよいところは、それぞれの橋梁にかかる力が少なく済むことです。短い橋梁と長い橋梁とで力がうまく打ち消しあうからです。しかし、傷みやすいところがあるので、がたつくところがあるというデメリットがあります。長生橋は揺れやすいと言いますが、ヒンジとヒンジの間のぶら下がっている部分だけが揺れます。つまり偶数径間の中央部分、全体の 1/4 だけです。また、長生橋の中で痛みやすい部分は橋を支えている支承のところと、トラスをぶら下げているヒンジのところとです。こうしたところが痛みやすいといえます。

長生橋と同じ形の大きな橋は日本にもありました。長野県の丹波島橋や大阪府の鳥飼大橋が挙げられますが、いずれも交通量の増加による老朽化が原因で、50 年くらいで取り壊されています。長生橋が 100 歳まで、そしてもっと長生きできるように、みんなに魅力を広めていければよいと思います。

【水流】長生橋に類似の橋が 50 歳代でなくなっていることを踏まえると、なおさら残す価値があると思います。メンテナンスが課題と言えますね。次に長生橋の景観面での魅力を伺います。

【渡辺】長岡市の有形文化財の水道タンクは、市民によるライトアップなどの活動で認知度が高まり、市も公園整備に乗り出しました。長生橋は土木学会の土木遺産にはなりませんが一般市民にとってはインパクトが弱いかもしれません。その先の取り組みが必要かと思えます。

【大石】日本一の大河信濃川と長生橋、これを一つのセットとしてとらえるとよいのかなと思います。

【並木】水道タンクはライトアップされて人が集う場所になっているのに対し、長生橋を望める土手にはほとんど人はいません。長生橋はあるのが当然ということになっています。

【渡辺】先ほど言い忘れたのですが、長生橋は長岡の戦前・戦中・戦後を見てきた橋です。この橋を残すということは、長岡魂にもつながるのではないかと思います。

【水流】市民や観光客にお気に入りの景観をアンケートすると、1 位、2 位とも長生橋や信濃川に関するものでした。こうした景観をいつまでも大切にしたいと思うわけですが、どうすれば残していけるか、提言をお願いしたいと思います。

【並木】技術的、費用的な課題はあるかもしれませんが、長生橋の見える土手に気軽に行き楽しめるような場所があればよいなと思います。

【大石】長岡青年会議所の取り組みをスライドで説明します。青年会議所では、「ゆうゆう縁日」というのを考えました。数年前に整備された太田川の合流点の河川敷ですが、花火以外には活用されていません。長生橋の見えるあの場所を活用して 8/10,11,12 に「信濃川ゆうゆう縁日」を開きます。子供たちが楽しめるような縁日や、長岡の美味しいものが食べられるブース、それからフリースペース等を考えています。縁日のラストには長岡花火を打ち上げる予定です。

そして、「ながおかくらす」という U ターンの実施を行う予定です。学生たちが企業のインターンや街づくりに参加し、長岡の魅力を感じてもらおうというものです。また、先ほどの縁日のときにはボランティアとして参加してもらいます。信濃川、長生橋、花火を間近で体感することで、より長岡の魅力が伝わるのではないかと思います。

【水流】青年会議所は活発で具体的、そして実行力があると思います。ぜひ市民に魅力を伝えていただきたいと思います。

【井林】橋の上に構造を紹介するパネルなどがあれば、楽しく関心が持てるのではないかと思います。また同じような橋を持つ外国の町と姉妹都市になれば、お互いに橋を大事にしていこうという機運が高まるのではないかと思います。

【渡辺】井林先生のガイド付きで橋歩きができればよいと思います。また、いろいろな観点からの橋歩きも楽しいと思います。橋の活用についていくつか例を挙げてスライドでご紹介します。

フィレンツェの世界遺産地区にあるベッキオ橋はルネッサンス期にできた古い橋で歩行専用です。橋の上には三階建ての建物が乗っていて観光客向けの土産物の店になっています。橋の中央には建物がなく川を見渡すことができます。将来長生橋が老朽化した時の商用利用として参考になるかもしれません。

オーストラリアのブリスベンのストーリー橋は長生橋よりも3歳若いカンチレバー橋です。この橋はライトアップされ、ランドマークとしてアピールしています。さらに、観光的なイベントとしてトラスの上に上る「ブリッジクライム」をやっています。ブリッジクライムをやっている橋は世界で3橋しかありません。この橋では囚人服のようなものを着て橋を上って下るわけですが、やる側も見る側も楽しめる大人気の観光スポットになっています。長生橋で実現したら日本初になります。このように、ライトアップ、これは最低限やっていただきたいことですし、さらにその先に、体で感じる長生橋といった様々なプログラムを皆さんと考えていければ、いい町づくりになると思います。

【水流】ありがとうございました。パネリストの皆さんからいただいた提言は、すぐできそうなことから、すぐには難しいことまで様々でしたが、関係機関と市民がよく話し合い、経済面、安全面、技術面の課題をクリアしながら、長生橋の魅力を高めていければと思います。これでパネルディスカッションを一旦終わらせていただきます。

### 【会場からの質問】

3名の方から質問がありました。

長生橋を一日でも長く残すためにはどうすればよいかとの質問に対し、井林氏からは痛みやすいところの交換には費用がかかるので、市民の熱意で行政を動かすことが重要との意見が出されました。また、渡辺氏からは、橋を痛める最大の原因は交通量であり、フェニックス大橋や4車線化した大手大橋により長生橋の交通量を減らすことが可能になったとの意見が出されました。

また、長生橋は吊橋ではないのかとの質問に対し、井林氏からは正確には吊橋とは言わないが、力のかかり方は吊橋に似ているとの回答がありました。

さらに、長生橋は風圧に対してどのくらい耐えられるのかとの質問に対し、井林氏からは、設計当時には風圧に対しての検討はされていなかったと思われるが、後の計算で十分に安全であることが確認されていることの回答がありました。

## 6.閉会

司会より、長生橋 80 周年事業の今後のイベントについての案内がありました。